

術活動全般をサポートするところ、病歴管理も兼ねて医療情報部として機能するところもでてきているようだ。ここ数年の間に、情報社会や図書室をとりまく環境が大きく変化しており、病院管理者・図書室関係者は、図書室機能とその組織について再検討すべき時期にきているのではないだろうか。

参考文献

- 1) 首藤佳子：病院をとりまく環境の変化
病院図書室14(4):132-139, 1994
- 2) 小田中徹也：病院における図書館員とその活動
医学図書館28(3):169-175, 1981
- 3) 山室真知子：司書の役割
病院図書室11:57-59, 1990
- 4) 浜口恵子：情報専門職としての図書館員
病院図書室14(4):154-158, 1994

＜シンポジウム：変化の中の病院図書室＞ 日本医学図書館協会と 病院図書室

日本医学図書館協会理事
青木孝雄

本日は標題について

1. 日本医学図書館協会（JMLA）の概要
 2. JMLAと病院図書室とのこれまでの協力関係
 3. 新生JMLAの目指すところ
 4. 新たな協力関係を求めて
- の4つの観点からお話したいと思う。

最初にJMLAの概要についてであるが、昭和24年（1927年）「官立医科大学付属図書館協議会」として当時の新潟大学、岡山大学、千葉大学、金沢大学、長崎大学によって創設されたのが最初であり、以後、文献の相互協力を主軸として加盟館員の研修など種々の活動を行ってきた。なかんずく1985年・第5回国際医学図書館会議（5th ICML）を主催したことは特筆すべきことであった。ついで、1987年には内外の医学図書館をとりまく情報環境の変化に対応すべく将来計画委員会が新たに設置され、多くの討論を経て1992年には将来計画委員会、基本問題検討会の最終答申が答申されたことを受けて1994年の第55回総会において、会則を改正、新生JMLAの誕生に至ったのである。

組織は医歯学系一般会員105機関、協力会員1機関の計106機関の会員で構成され、会長のもとに全国8ブロックから選出された10評議員と全国規模で選出された11名の理事及び2名の監事が置かれている。

評議員は地区のなかめとして地区協議会を運営するとともに全国レベルで協会を支えている。理事のもとには関連する各種の委員会が設置され協会の具体的な事業を推進している。その事業は機関誌「医学図書館」を始めとする、当協会の活動及びその成果に関する



シンポジストの皆さん

刊行物の刊行。文献相互協力その他の協力活動、図書館員の資質向上に必要な各種研修会、講演会の開催、国内外の関連諸機関、諸団体との協力提携、及び共同事業の推進、図書館情報の管理、運用についての調査、研究、開発など多岐にわたっている。

次にJMLAと病院図書室とのこれまでの協力関係についてであるが、本日ご参会の近畿病院図書室協議会は、1974年創設の我が国における初の病院図書室協議会であり、以降今日まで20年間、病院図書室の質の向上のための組織化の牽引車としての役割を果たして来られたことは紛れもない事実であり深く敬意を表したいと思う。貴協会の発足以来、病院図書室研究会を始めとする10指に余る病院図書室のネットワークがブロック単位、あるいは都道府県単位で組織されJMLAの地区活動あるいは全国的レベルでの文献の流通、館員の教育研修など、様々な場面を通じて協力提携関係が保持されてきたことは周知の通りである。

3番目にこのようなJMLAのこれまでの活動、病院図書室との関係の中で新生JMLAは、何を目標しているのかについてお話ししたいと思います。ことここに至った背景として、1) 医学情報活動の拡大 2) 学術情報センターの設立と諸機能の拡充 3) 情報処理技術の進歩と医学図書館員の研究活動の活性化などが挙げられ、これらの問題を分析検討の結果、JMLAのこれまでの閉鎖的な等質集団としての活動には自ら限界があり、医学医療情報の現状に即応するために大きな変革が必要であるとの結論に至ったのである。

その最も大きな変革は等質集団維持のための入会基準を撤廃し、医学医療情報に関心があり、より良い活動を願う機関は、JMLA地区評議員の推薦により、誰でもいつでも入会が自由になった点にある。

また、当協会が今後、力を入れていく事業として、1) 生涯学習・継続教育計画の実施、多様な教育・研修会の提供、優れた研究成果への表彰、助成金の交付などを通じての専門職性向上のための援助。2) 内外の動向に関

する情報の提供、各種出版物の刊行、各種調査報告、情報の交換サービスなどの会員に対するサービス。3) 医学図書館、医学医療情報サービス界を代表する団体として、政府機関を始め国内外の諸機関と交流、協議、提携関係を密にする政策的活動などが挙げられる。

中でも、時代の要請に即応した図書館員の教育、研修、各種団体、諸機関との緊密な提携関係の樹立は今後の大きな課題であるとの認識に立っている。

当面の会員としての特典などについては、“入会のご案内”にある通りであるが、即物的な入会のメリットもさることながら今日状況の中で我々医学図書館員に求められているものは何か、またそれに対して我々が何を成し得るかを考えることが重要であると思う。

また、現在、医学・医療及び関連領域における情報のネットワークは幾つもあるが、これらのネットワークが各々の目的を踏まえながら重層的関係を保持しつつ、ご参集の皆様も、新生JMLA加盟にも積極的にご努力頂き、全体として大きく発展していくことを切に願っている。



座長の田伏薫先生・小田中徹也氏